midorinodam.jp

NPO法人
緑のダム
北相模

６月号の１枚：森の音楽会、モーツァルト「５月の歌」

Green Forest Fighters、ケニヤからの便り

「森林・林業の再生」に挑戦し、危険な外国の僻地に敢然と乗り込む姿

学生時代に当会の「相模湖・嵐山の森」に参加した事のある笹原千佳さんが青年海外協力隊として「アフリカのケニヤ」に渡り、その現地の活動振りをニュースレターの形で知らせてくれました。

活動名は「Green Forest Fighters」と言うそうで、当初は地域材の有効活用による森林資源の経済性創出が目的だったそうです。そんな中、日本語を習いたいと言う12～17歳の若者が増えたそうです。

笹原さんはスワヒリ語を勉強した時のテキストを日本語教科書に編集し直し、当地の教会で日本語教室を開きました。そのスワヒリ語の日本語改訂版は、まるで日本で勉強をしているかの雰囲気を醸し出してるそうです。そうしていると、日本に行きたいと訴えてくる子も出てきました。国としても貧しく、教室となっている教会も泥つくりで此処に暮らす子供たちは高校へ通う学費もままならないが、外国からのいろいろな形の奨学金制度もあることですし、彼らにもチャンスがあります。我が国も積極的に受け入れたいものです。

多数の国際紛争が報道されますが、阪神大震災及び、３・11東日本大災害以来、「共に生きる」日本人の優しい民族性が息を吹き返す世論が高まっています。高度成長期に「銭ゲバ人」も増えたが、それを反省する機運も高まり、若者が苦労を承知で「森林・林業の再生」に挑戦し、危険な外国の僻地に敢然と乗り込む姿を頼もしく思います。

笹原さんは「かながわ地球市民メッセンジャーからのお便り」として神奈川県のウェブサイトでも紹介されています。

http://www.pref.kanagawa.jp/cnt/f4099/p869262.html

石村　黄仁（本会、代表理事）

今月の定例活動

2015.06

6月 7日（第一日曜日）：
小原本陣の森/森林整備、担い手育成、技術向上。
長福寺さん所有の森/若者の森づくり
いずれも弁当持参。参加費：４００円
6月21日（第三日曜日）：
相模湖・嵐山の森/里山交流、多様な森林活動。
主食・自分のお椀・箸・飲料水は持参。参加費：４００円

FSC
www.fsc.org
FSC® C006376
責任ある森林管理のマーク

[定例活動]小原本陣の森

5月3日（第一日曜日）

春の爽やかさが終わりを告げ、暑さが厳しい季節になってきました。5月3日に行われた小原定例活動では、緑のダムから２名、Forest Nova☆からは4名参加し、先月の活動に引き続きハイキングコースに設置する為の道標づくりを行いました。

先月の活動では、小原の拠点においてあるチェーンソーの調子が悪く使えなかった為、今回は嵐山のチェーンソーを2つ持ってきました。チェーンソーを使っての文字を書く面を伐る作業はとても早く、今までのノコギリでの作業の進み具合が嘘のようにあっという間に残っていた丸太を伐り終えてしまいました。その甲斐もあり、道標づくりの目標値である15本すべてを伐り終えることができ、前回完成した3本を除き、完成したのが6本、残りは文字を掘る作業が2本、文字に炭を入れる作業が4本となっています。そして完成した内の1本は、ハイキングコース入口に記念すべき1本目として設置することができました。設置出来たことで、作っていた道標が実際に利用者からどのように見えるのか確認できたので、次回からは設置する際のイメージがしやすくなると思います。

道標を設置する際には、つるはしやダブルスコップという道具で道標が倒れないくらい深く地面を掘ります。掘った穴に道標を入れ、隙間を大きめの石で覆った後、上から土をかけて最後に土を踵で踏んで固くすれば設置完了です。これからは道標づくりを行いながら、出来たものから順々に設置していく予定です。

また、道標を加工するのにチェーンソーが１本で事足りたので、残った方の目立て作業を行いました。チェーンソーは使用後、毎回掃除をしなければならない決まりなのですが、嵐山から持ってきたチェーンソーは掃除をしていなかったらしく、汚れたままの状態でした。なので、緑のダムの川田さんにも教わりつつ、いつも以上に時間をかけて目立てを行いました。自分たちの技術はまだまだ未熟なので、これからも技術のある人達から教わっていきたいと思っています。

この道標づくりは2月からかれこれ4か月行っているので、そろそろ片を付けたいと思っています。そのためには、もう少し多くの参加者が必要だと思うので、来月からはもう少しまとまった人数で作業をしていきたいと思います。また、これから梅雨になっていくので、雨の日の活動のことも考えていきたいと思っています。

中嶋　竜太（Forest Nova）

[定例活動]長福寺さん所有の森（仮称）

5月2日3日（第一日曜日）

今年から小原本陣の森の定例活動に平行して、相模湖・与瀬（相模川、嵐山の対岸で小原の西側）にある長福寺さんが所有する森での活動が始まりました。この森には、中学生、高校生、大学生が中心となって活動する「相模湖・若者の森づくり」の中心となるフィールドです。相模湖・嵐山にある望星の森、ForestNovaの森に続く３つ目の活動フィールドになります。まだ活動を始めたばかりですので、正式な活動名称の決定に至っておらず、長福寺の住職さんとも相談しつつ、若者の森づくりにふさわしい活動名称を考えています。長福寺は鎌倉･建長寺派の禅宗のお寺になりますので、そういった自分自身を見つめていく、といった要素、具体的には整備した森の中で座禅を組み、自分自身と森との関わりについて考えていくのもいいかもしれないと勝手に想像しています。

具体的な森の整備ですが、現在境界線確定作業を始めたところですが、さしあたって、この部分、という斜面を住職さんに教えていただいているので、当面はそこの整備を行います。今回はその中心にある沢の両側から作業を始めました。今回は作業初回ということで、相模湖畔の旅館に泊まり込み、二日間連続で作業しました。初日は沢の東側は２０年前に広葉樹を皆伐し、その後手入れをしていないということで、萌芽更新しまくっており、まずは作業道まわりから整備しています。普段行っている20m近いスギ、ヒノキをみんなで倒す、というパターンでなく、5-6mの広葉樹を一人一人がどんどん切り、枝を払いきれいに並べていくという作業も新鮮だったようで、次から次へと中学生が夢中で切っていく姿が印象的でした。

二日目は沢の反対側の斜面で草刈りをするつもりでしたが、思いのほか、竹の侵入が大きく、また竹自体

も古く枯れたり、折れたりしていたため、これらを整理するのも一苦労でした。当初、生木用のノコギリしか持っていなかったので、竹が思うように切れなかったのですが、午後からは竹専用のものを投入し、その切れ味に中学生たちは感動しておりました。竹の斜面についてはもう少しがんばらないといけない状況ですが、そこにやりがいを感じてしまうあたり、普段から山仕事に慣れている中高生らしい感想をもっていました。頼もしい限りです。作業後もここはこうしたい、ああしたほうがいいと議論しながら、帰っていく姿が印象的でした。また、これらの活動フィールドを提供していただいている長福寺のみなさまには心から感謝しております。これからも良好な関係を築きつつ、森を整備していきたいと思います。

宮村　連理（本会、理事）

[定例活動]相模湖嵐山の森

5月17日（第一日曜日）

集合場所であるＪＲ相模湖駅ではイワツバメがせわしなく巣を行き来している。これは先月と同様だが、木々の緑はすっかり色濃くなった。嵐山の花々もスミレやニリンソウに代わりノアザミ、スイカズラ、マルバウツギが林縁を彩る。参加65名。

今日は元高井戸中の教員・宮村さんが三鷹二中に赴任したため、二中の生徒たち７名と高井戸組１３名が新たに「地球環境部」として合同参加。フォレストノバにも新規のメンバーが加わり、いつになく新鮮な雰囲気が漂う。森の音楽会が例年通り開かれるとのことなので、何かいいことがありそうな予感が。

お花畑班は相模湖に溜まった流木のチップを播いて園路づくりに邁進している。モッコウバラのアーチが花盛り。一方、ＪＦＩＫ会員でもある川田さんは日がな一日、チェーンソーの点検に専念する予定。こういう人が会を目立たぬところでしっかりと支えている。

私は石村夫人の知り合い６名が嵐山の森を歩きたいとの要望があったので、それに対応。参加は星野弥生さん、武隈さんご夫婦とお子さん２名、ＮＰＯに関心のあるフランス人・イボンさんの計６名。フランス人！　近頃、日本語も怪しくなってきたので英語はもちろんフランス語などは手に負えるはずもない。通訳は星野さんに引き受けてもらい、森の話をしながら山頂へ。途中、道なき道をアオキの枝につかまりながらの難行だったが、無事に到着。別ルートから登ってきたフォレストノバと合流する。富士山こそ見えなかったものの、西に連なる大菩薩連嶺ののびやかな山容をはるかに望むことができた。かつて歩いた山々だけに懐かしい。

山を降りてからはいよいよ森の音楽会の始まりだ。演奏者は石村夫人の姪ごさんご夫妻。

楽曲は「星めぐりの歌」（宮沢賢治）、「トロイメライ」（シューマン）、「５月の歌」（モーツァルト）、「菩提樹」（シューベルト）、「アイリッシュナンバー＋草原の子ども」、そして「神田囃子」。チェロ、ピアニカ、笛の音が嵐山の森に響く。それに誘われてかホトトギスやシジュウカラ、ガビチョウたちが賑やかに鳴き始めたのにはびっくり。音楽は小鳥をも動かすのだろうか。最後は皆で「埴生の宿」、「ふるさと」を合唱する。私も石村ご夫妻とご一緒に。だが、この歌、若い人の多くは知らないようで、歌っているのはおじさんたちばかり。あしからず。

この日は材の仮置き場建設に使う柱材のほぞ穴あけもノバのメンバーが加わり大幅に進展。森林整備班も径１０ｃｍほどの丸太を５１本ほど降ろした上、径路づくりをも完成させた。さらに「地球環境部」は８本、生命の森宣言東京は２本を間伐。お花畑班は午後にはトウガラシやインゲンの種まき。先月播いた綿が芽生えていることもあって、お花畑がだんだん野菜畑になっていきそうな勢いである。

終礼近く、基地の一段上の栗畑ではノバの世持さんと武隈さん、石村夫人の姪ごさんご夫婦の小さなお子さんたちが仲良くストラップづくりを楽しんでいた。森の中での微笑ましいひととき。石村夫人のお知り合い、姪ごさんご夫婦、そして子どもたちと、今日はまさに石村夫人一色の日であった。

内野　郁夫（本会、理事）

[報告１]
相模原市民若葉まつり報告

５月９日１０日で行われた相模原市民若葉まつりの様子を写真でご紹介します。

[連載]
緑のダム、リレーエッセイ
「楽しく、休まず、ボチボチな人々」

緑のダム北相模と木育という言葉

最近「木育」という言葉に出会いました。平成１６年に北海道のある団体が作った言葉だそうです。
「子どもをはじめとするすべての人びとが、木とふれあい、木に学び、木と生きる」ことを学ぶ活動を「木育」とした、ということですが、さっそく林野庁が「森林・林業基本計画」に取り込んでいます。

先日の若葉祭りのイベントの中で、木工所の切れ端をたくさん積み上げて、子供たちに好きなものを作らせるブースがありました。狭いブースにいっぱいの子供たちが、熱心に道具を使って制作に励んでいました。なんと！料金が５００円とか！？それでも親子で終日大賑わいでした。まさにこれが木育か！

木を使っての教育などだけでなく、身の回りには木に癒され、木に育てられることの方が多いのではと感じています。木造住宅に入った時のあの何とも言えない「ホッと」する感覚。木製品に触れた時に思わず撫でまわして、その感覚を楽しむことがあります。

我々は、いつもの活動日に森に入って「木育されていて、木育していた」のではなく、「森に癒され、森に育てられていた」のではないかと感じています。これも広い意味での「木育」かもしれませんが、むしろ「森育」という言葉を提案したいと思います。

本会緑のダム北相模は単に木を育てているのではなく、森を育て、森に育てられ、森を使って教育をしてきたように思われます。今後も「木育」ではなく「森育」を深めることに、努めていけたらと思います。

ちなみに、お花畑班ではすでに「花育」だそうです。

斎藤　憲弘（本会、理事）

[連載１]
相模湖・若者の森づくりから

今月は杉並の中学校をこの３月に卒業したタイミングで「緑のダム北相模・地球環境部」に入部した二人の感想をご紹介します。

今回、初めて地球環境部の活動に参加しました。斜面での作業は足場が不安定で慣れない作業でしたが、木が倒れた時はもの凄く達成感を感じました。また、木を一本切る前と後での森の明るさのちがいに驚きました。地球環境部が昨年まで活動していた森も見に行きましたが、手入れされた森はとても明るかったです。その森は今の状態になるまで、2~3年かかったそうなので森の手入れをするのは大変なことですが、とても重要なことだと思いました。また、間伐した木でまた板を作り再利用することはとても良いことだと思いました。私は、「神去なあなあ日常」という本を読み、「WOOD JOB」という映画を見て、林業や山に興味を持ちました。実際に森で作業をすると本当に物語の中のようで、大変でしたがとても楽しかったです。だから、これからも参加し、作業に慣れ、森に関しての知識も深めていきたいです。

尾野　萌子（都立西高１年）

僕が地球環境部に入部したのは卒業直前のことでした。僕はかねてから地球環境部の活動に興味を持っていて、入試を終えたことをきっかけに晴れて入部したのですが初めての活動は想像以上に楽しいものでした。主に森で活動するのですが草木を切ったり、急斜面を登ったりと五体をフルに使う仕事はとても刺激的なもので体の疲れまで快く感じられるほどでした。また、地球環境部は「緑のダム」という団体の一部として活動しているため当然他のメンバーの方々とも関わります。彼らは大学生から定年を過ぎたおじいさんまで様々な年齢、職業の人々でお互い家族、友人、同僚どれにも当てはまりません。しかし、同じ一つの森で活動する者同士、すれ違う時には挨拶を交わし食事の際は同じ鍋を分け合い最後の活動報告では拍手を送り合います。このように地球環境部では森での活動を通じて様々な体験ができ家で携帯ばかりいじっていては分からない様々な世界を知れました。

桂川　陽佳（都立西高１年）

[報告２]
渋谷DEどーも

晴天に見舞われた5月4日（月）と5日（火）に、Forest Nova☆は渋谷でイベントへ参加してきました。毎年NHK主催のイベントには出展させてもらっており、今年は「ECOパーク」ではなく、「渋谷DEどーも」というイベントで間伐材木工体験ブースを出展しました。ブースでは人工林についての紙芝居と、木のストラップ作りを行い、緑のカーペット（子供たちが集まれる広場のようなスペース）では人形劇風紙芝居の読み聞かせをしました。

1日目は日差しと風が大変強い中、124名(内、木工体験者71名)ものお客様が来てくだり、大盛況でした。木工は当初やすり掛けをしてもらうだけの予定でしたが、当日スタッフの提案でマジックペンでの装飾を取り入れることにしました。すると子供たちにとても好評で、中には『明るい森』(紙芝居で教えた内容)を絵に描いてくれる子どもいました。お昼の時間帯には、緑のカーペットで人形を用いた特別版の紙芝居を行いました。

マイクを使って読み聞かせができた為、通りすがりで立ち止まって聞いてくれるお客様も沢山いらっしゃいました。より多くの人にメッセージを伝えることができた上に、そのままForest Nova☆のブースに来て下さるお客様もいて、とても効果的だったと思います。

2日目は137名(内、木工体験者:65名)と、初日を上回る数のお客様が来てくれました。2日間を通して、多くの人々に「伐ってもいい木」があることや、木工の楽しさを知ってもらうことができたと思います。一方、木材や物品の準備不足が目立った点は次回に反省として活かしていきたいです。そして、今回の目的でもあった「今後のForest Nova☆の方針を決める」を達成できるよう、これから私たちは何をしていきたいのか・何ができるのかを、しっかりと話し合っていこうと思います。ありがとうございました。

西田　朋世（Forest Nova）

事務局から＆会員コーナー

●第13期定期総会について

６月２１日の相模湖・嵐山の森定例活動後、１６時から県立相模湖交流センター研修室にて定期総会を行います。お送りしました葉書にて出欠をお知らせください。欠席される場合は委任をお願いいたします。

●今年度の会費を納入いただいた方です。ご支援ありがとうございます。

出頭亜樹、青山竹文、青山かよ、石井明男、牧野佑紀、田中真次、桜井尚武
山岸弦、佐藤陽子、小川昭子、こどもりクラブ、亀谷健仁、黒川孔司
川田浩、小椋陸、小椋宙、内野郁夫、高橋雄希、丸山温、丸茂喬
自然流の会、宮村連理、唐澤千年、渡邊優唯、吉澤日向、西村蒼平
柳原保邦、木村縁、永井伶、岡田夏希、加藤大樹、大坪莉菜、内野源太
青盛能定、青池岳、松田剣心、
三鷹市立第二中学校地球環境部１０名
（6/10現在）

参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前集合してください。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴　成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、第３日曜は自分の食器(お椀・お箸)

危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランテイア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

NPO法人
緑のダム北相模

急がず、無理せず、楽しく、休まず、
ボチボチと・・。
そして、沢山の参加で森は、良くなる。
（台風の日は勉強会開催。１６年間、
一日も休まず“継続は力”。）

名称：特定非営利活動法人　緑のダム北相模
事務局：154-0023　東京都世田谷区若林３－３５－９
発行人：NPO緑のダム北相模　事務局 Tel&Fax　03－3411－1636
ＵＲＬ：http//www.midorinodam.jp
Facebook：http://www.facebook.com/658588827578641
E-mail： info●midorinodam.jp　●を@に変更して使用してください

協働団体：セブン-イレブン記念財団、相模原市（市民協働推進課）、
東海大学付属望星高等学校、生命の森宣言・東京
支援団体：WWF JAPAN、イオン財団、市民社会チャレンジ基金、
神奈川県建具協同組合、JFEメカニカル、東急コミュニティ、
マルモ出版